

18歳	大分県の高専卒業 日本電信電話公社 大分支社
35歳	青年海外協力隊としてサモアへ NTTインターナショナル ODAやBHNの事業に携わる
50歳	シニア海外ボランティアとして ヨルダンへ

趣味

- ・アマチュア無線(海外に行っても日本と連絡がとれます。しかもタダ)
- ・パソコン(組み立て、解体...。朝めし前です)
- ・映画鑑賞(映画館でもDVDでも、恋愛もの以外ならどんなジャンルでも。最近観て良かったのは「輝しくれ」。おススメです)

「自分の技術で役に立てるのなら」

転機は青年海外協力隊への参加だった。

アマチュア無線が趣味だった山崎さんは高校卒業後、地元の電電公社(現NTT)大分支社に入社。電報の受信、交換機の工事、家庭電話の設置など技術畑を歩んだ。30代で青年海外協力隊を意識しはじめた。国営の電電公社は協力隊への参加を奨励し、社内にもOBがいたからだ。最初は「自分の技術で十分か不安だった」ために応募をためらっていたが、当時の年齢制限35歳を目前に控えた34歳で「受験もせずに後悔するより受けてみよう」と応募、見事合格した。それまで海外旅行もしたことがなかったが、「無線で外国の人と話すことがあり、海外に対する興味はあったんでしようね」と振り返る。そして何よりも「自分の技術が役に立つのなら」という思いが強くなった。

赴任先はサモア。政府施設や総合病院内の交換機PBXの修理やメンテナンスを教えた。「協力隊に行ったことで海外に縁ができました」。サモアから帰国後、NTT大分に復帰したが、数年後に湾岸戦争が起けるとNTT九州の労働組合が難民支援に動いた。山崎さんも協力隊の経験を買われて

しにあ キャリアパス体験談

技術屋の皆さん、  
思い切って飛び出してみて

(特活) BHNテレコム支援協議会員

ミャンマー、ヨルダンなどで通信環境整備

YAMASAKI Yoshiyuki

山崎 義行 さん(55)



のヨルダンへ。難民を助ける会、HuMA、BHNによる共同支援で、イラクとの国境付近にある難民キャンプでの医療活動。山崎さんは通信担当として、事務所内のインターネッ ト環境整備、非常用通信の確保などに従事した。

「20代の頃は一生このまま田舎にいるんじゃないかと思っていましたが、協力隊で人生変わりました」。

ゆくゆくはJICAのボランティア調整員として現地で青年海外協力隊を支えていきたいと語る。「最後に返して...。そこまでかっこ良くないけど、初めて途上国に来る若い人たちに自分の経験からアドバイスできれば」と優しい表情を浮かべる。

海外ボランティアに関心を寄せる同世代には、「われわれ団塊の世代はいろんなかたちで力を発揮できるの で思い切って飛び出して下さい」とエールを送る。「とくに技術屋さん が活躍できる場はたくさんある。途上国が今経験している技術進化を昔の日本で体現してきたから。最近 は技術が細分化されて若い人は自分の専門外の知識に疎いところがあるけど、シニアは基礎から全部知っているから幅広く対応できる」。

“技術屋シニア”の強みだ。

ヨルダンへ。

40代でNTTインターナショナルに 出向。東京をベースに途上国に出張してODAの調査などを行った。ちょうどこの頃、BHNテレコム支援協議会が発足。NTTとBHNの共同プロジェクトのほか、正月や夏休みを利用してBHNの活動を手伝い、ミャンマーやバングラデシュなど各国をまわった。

国際協力に専念するために

早期退職

2000年、40代最後の年に次の転機を迎えた。JICAシニア海外ボランティアに合格すると同時に長年勤めたNTT退職を決意したのだ。大きな決断と察するが、「技術屋として国際協力の仕事を続けたいと思ったから」とさらりと答える。それまでの経験から途上国の過酷な環境でも「やっていける」という自信もあった。またNTTの組織改編、自身の50歳の節目などさまざまなタイミングが重なったことも影響したという。

シニアボランティアで向かった先は再びヨルダン。アンマンの職業訓練校で通信技術を教えた。どうやらこの国は不思議な力で山崎さん呼び寄せようとした。帰国後すぐにイラク戦争勃発。難民支援のために3度目